

金棒があります。ガッチリした本格的な鉄骨ドームなのに何故か光学系が入っておらず、建物を7階以上(地下5階)にわたって貫くタテ穴はフォーコートに使用されていたようですが、最近光学系を入れようという動きがあります。ドームと天文学教室の写真をのせましたが、手前の草原は春先には橙黄色のパピーに埋められます。

ここ数年のことでしょうか、ケスターというポータブルの望遠鏡が南カリフォルニアの山野、海岸を駆けめぐりました。カリフォルニア工科大学が新しい太陽の観測所をシーイングのよい所に設置すべく3台のケスターと2人の人を駆使しているのです。早朝は大気が静かなのでどこでもシーイングは良好だという前提のもとに昼間

のシーイングが調べられています。そして候補地も数カ所にしぼられてきましたが、その中に「大学のグラウンド-天文学教室の道を隔てた隣-が良好な場所として入っている」というのが昨年私がここに来たときに聞かされた面白い話でした。皮肉なことに Mt. Wilson は one of the worst places です。ただしこれは太陽が高くなってからの話ですから念のため。したがって Hale Laboratory や天文学教室のドームが見直されてきたというのが話の順序のようです。

私のレポートもこの辺で尽きたようですので、スモッグけむる今日この頃のバサデナからお別れさせていただきます。ごきげんよう。(1967年8月)

雑 報

地球のアルベド 月や惑星のアルベド(反射能)を測定することは比較的易しいが、地球のそれはなかなか困難である。地上から測定するほとんど唯一の方法は、月の夜の部分を照らす地球照を測定して間接的に決めるよりほかはない。1950年代にダンジョンが眼視光度計を使って測った値、0.36が長く用いられていたが、最近のソ連の観測の0.40が理科年表にも用いられている。スミソニアン天文台のフランクリンが1965年に南アフリ

カのボイデン天文台で黄及び青の光電測光をした結果(Jour. Geophys. Res., 72, 2963, 1967), 黄色、すなわち眼視域で0.30という小さい値を出しているのが注目される。月の昼間の部分による散光をていねいに測定した結果、このような小さい値になったようである。青色部では0.36となっている。1962年にマリナー2号によって地球外から測定したものがあるが(Jour. Geophys. Res., 69, 4661, 1964), これはアルベドの測定を計画してやったものでないので、その結果は信用できないようである。(古畑正秋)

西村製の反射望遠鏡

- 30cm “A” カセグレン・ニュートン兼用
10cm 屈折望遠鏡 (f/15)
- “B” カセグレン焦点
15cm 屈折望遠鏡 (f/12)
- 40cm “A” カセグレン・ニュートン兼用
15cm 屈折望遠鏡 (f/15)
- “B” カセグレン焦点
20cm 屈折望遠鏡 (f/12)

株式会社 西村製作所

京都市左京区吉田二本松町27
電話 (77) 1570, (69) 9589

カタログ実費90円郵券同封



30 cm 反射望遠鏡

ニュートン・カセグレン兼用